



Oracle Financial Consolidation and Close Cloud

2017 年 11 月 (17.11)

更新情報

目次

目次.....	2
変更履歴.....	3
ORACLE FINANCIAL CONSOLIDATION AND CLOSE CLOUD (11 月更新).....	3
更新情報	3
Oracle Cloud Customer Connect のご案内	3
月次スケジュール.....	3
設定可能な計算の作成	4
EPM Cloud サービス間の統合	4
FCCS および TRCS とオンプレミスの Oracle E-Business Suite 間の統合	4
Close Manager および Supplemental Data Manager のカスタム・レポート作成	5
仕訳の参照整合性.....	5
仕訳の表示通貨名	5
Historical 勘定の Opening Balance Adjustment 換算の更新.....	5
ディメンション・メンバーの制限	6
プロビジョニング・レポートの CSV バージョンの変更	6
データ管理における重複するターゲット・アプリケーション名の登録	6
ドキュメントに対するフィードバックのお願い.....	6
サポートの終了について	7
クラシック・ディメンション・エディタ	7
Oracle Fusion Financials Cloud とデータ管理のファイルベース統合	7
今後の更新予定	7
高度な連結機能.....	7
修正された不具合	7
考慮事項	9
ディメンション・エディタからの基本メンバーの追加	9
17.11 への 単一通貨のインポート.....	9
Smart View	9
共有エンティティにおけるデータのクリア	10
純利益および利益剰余金の現在の勘定科目に対する CTA 計算の変更点	10
アップグレード後の CICTA リダイレクト・アカウント設定の無効化	10
セルフサービス・アップグレード	10
FCCS 金額上書きおよびレポート上書きの勘定科目	10
データ収集期間の日付の編集.....	11
ICP プロパティを使用したエンティティ・メンバー名および別名	11
メタデータの操作について	11

変更履歴

このドキュメントは、既存のセクションの変更および新しい情報の追加により、更新され続けます。すべての更新を次の表に示します。最新の更新情報が先頭に記載されています。

Date	Feature	Notes
2017 年 10 月 27 日		初版リリース

※内容の変更につきましては、当ドキュメント(翻訳版)への反映が遅れる場合があります。
以下のオリジナル版(英語版)が最新となります。

https://cloud.oracle.com/en_US/fcc-cloud/releasereadiness

ORACLE FINANCIAL CONSOLIDATION AND CLOSE CLOUD (11 月更新)

このガイドでは、近日公開される Oracle Financial Consolidation and Close Cloud のリリースにおける最新情報と修正された問題点の概要について説明します。

更新情報

ORACLE CLOUD CUSTOMER CONNECT のご案内

EPM Cloud サービスをご利用のお客様は、ぜひ Cloud Customer Connect フォーラムへご参加ください。Oracle Cloud Customer Connect は、共通のゴールや目的について、メンバー同士が交流したり共同作業したりする場を集めたコミュニティ・サイトです。ここでは、最新のリリース情報や、イベントのご案内、またはユースケースの質問に対する回答などをご覧いただくことができます。登録には数分かかりません。皆様のご参加をお待ちしております。

<https://cloud.oracle.com/community>

月次スケジュール

オラクルでは、本サービスの最新の更新を、テスト環境へは 2017 年 11 月 3 日(金)、本番環境へは 2017 年 11 月 17 日(金)に適用します。この更新はお客様の通常の日次メンテナンス中に実施されます。

また 2017 年 11 月 3 日より Oracle Help Center で、最新のドキュメントをご覧いただくことが可能です。

注記: メンテナンス・スナップショットは、現在のバージョンのサービス・インスタンスから先行のバージョンまたは次のバージョンに移行することができます。たとえば、17.08 のスナップショットを 17.07 や 17.09 のサービス・インスタンスにインポートすることができます。同一バージョン間の移行は常にサポートされています。移行に関する詳細については、「*Administering Migration for Oracle Enterprise Performance Management Cloud*」を参照してください。

設定可能な計算の作成

アプリケーションのシード済みのデフォルト計算に独自のカスタム計算を追加することができます。このシステムでは、「計算マネージャ」で作成した独自の計算ルールを含めることができるデフォルトの連結プロセス内に挿入ポイントが備えられています。この詳細については、「*Administering Financial Consolidation and Close Cloud*」の「Creating Configurable Calculations」を参照してください。

EPM CLOUD サービス間の統合

複数の EPM Cloud サービスのサブスクリプションをご利用の Financial Consolidation and Close Cloud と Tax Reporting Cloud のお客様は、サービス間の接続を作成することができ、Close Manager 機能を使用してこれらの EPM Cloud サービス間の統合を可能にすることができます。

事前作成されたエンド・ユーザーの統合により、お客様は FCCS および TRCS 内で他の EPM Cloud 機能にアクセスするタスクを実行することができます。たとえば、FCCS のエンド・ユーザー統合を Account Reconciliation Cloud (ARCS) 環境に作成することで、ユーザーは FCCS タスクの調整ステータスを簡単に監視することができます。

次の EPM Cloud サービス向けとして、事前作成済統合とエンド・ユーザー統合が Close Manager 内において提供されます。

- Account Reconciliation Cloud
- Planning and Budgeting Cloud
- Enterprise Planning and Budgeting Cloud
- Financial Consolidation and Close Cloud
- Tax Reporting Cloud
- Profitability and Cost Management Cloud

これらの統合に関する詳細については、「*Financial Consolidation and Close Cloud Administrator's Guide*」の「Appendix A」を参照してください。

FCCS および TRCS とオンプレミスの ORACLE E-BUSINESS SUITE 間の統合

オンプレミスの Oracle E-Business Suite と FCCS または TRCS 間のシームレスな統合を作成できるようになったため、EPM Cloud サービスのタスクが、クローズ処理に必要なオンプレミス製品で発生するイベントを監視できるようになりました。たとえば、オンプレミスの Oracle E-Business General Ledger で「仕訳期間クローズ」イベントの発生を待機するように FCCS タスクを設定することができます。

これらの統合についての詳細は、「*Financial Consolidation and Close Cloud Administrator's Guide*」の「Appendix B」を参照してください。

CLOSE MANAGER および SUPPLEMENTAL DATA MANAGER のカスタム・レポート作成

Close Manager と Supplemental Data のレポートが作成できるようになりました。レポートは、PDF、HTML、または XLS 形式で作成することができます。

Close Manager と Supplemental Data Manager のカスタム・レポートを作成するには、次の 4 つの手順が必要となり、サービス管理者のみが実行することができます。

- 「問合せ」タブの「アクション」ボタンで「Close Manager 問合せ」または「Supplemental Data 問合せ」を作成します。
- テンプレートを作成します。
- レポート・グループを設定します。
- レポートを設定します。

カスタム・レポートの作成後、「サービス管理者」またはアクセス権限のある他のユーザーがレポートを作成することができます。この詳細については、「*Administering Financial Consolidation and Close Cloud*」の「Generating Custom Reports」を参照してください。

仕訳の参照整合性

アプリケーションでジャーナルの参照整合性の問題が発生するのを防ぐため、Financial Consolidation and Close Cloud は、ジャーナルで参照されているメタデータ・メンバーの削除を検証し、防止します。詳細については、「Financial Consolidation および Close Cloud の管理」の「ジャーナル参照整合性」を参照してください。

アプリケーションで仕訳による参照整合性の問題が発生するのを回避するために、Financial Consolidation and Close Cloud では、仕訳で参照されているメタデータ・メンバーの削除を検証して防ぎます。この詳細については、「*Administering Financial Consolidation and Close Cloud*」の「Journal Referential Integrity」を参照してください。

仕訳の表示通貨名

「エンティティ」名または別名の末尾にデフォルトの通貨が表示されるようになりました。この詳細については「*Working with Financial Consolidation and Close Cloud*」の「Viewing Journals」を参照してください。

HISTORICAL 勘定の OPENING BALANCE ADJUSTMENT 換算の更新

「Historical」勘定に対し、「Opening Balance Adjustment」は期首残高が繰り越されるクローズ残高として同じ実行レートで換算されます。「エンティティ」通貨および「親」通貨のクローズ残高データが前期間に存在しない場合、前期間の「期末レート」が使用されます。

この詳細については、「*Administering Financial Consolidation and Close Cloud*」の「Seeded Members - Built-in Calculations」を参照してください。

ディメンション・メンバーの制限

パフォーマンスを最適化するため、Financial Consolidation and Close Cloud では、各ディメンションで許可されるディメンション・メンバーの最大数に制限が加えられます。この更新において Financial Consolidation and Close Cloud では、ディメンション・メンバーの許容数を越えたことを示すエラー・メッセージが表示され、非準拠のメタデータが保存できなくなります。この詳細については「*Administering Financial Consolidation and Close Cloud*」の「Working with Members」を参照してください。

プロビジョニング・レポートの CSV バージョンの変更

この月次更新は、9月の月次更新(17.09)で提供された CSV バージョンの「プロビジョニング・レポート」の変更を元に戻したため、ユーザーに割り当てられた事前定義済 ID ドメイン・ロールにマッピングされるアプリケーション・ロールが一覧表示されるようになりました。また、グループにロールが割り当てられていない場合でも、ユーザーの割り当てられているグループが表示されます。たとえば、ユーザーに「サービス管理者」ロールが割り当てられている場合、レポートの CSV バージョンでは「サービス管理者」ロールにマッピングされた各アプリケーション・ロールに 1 行表示されます。

プロビジョニング・レポートの CSV バージョンの作成についての詳細は、「*Administering Access Control for Oracle Enterprise Performance Management Cloud*」の「Generating Service-Level Provisioning Report」を参照してください。

データ管理における重複するターゲット・アプリケーション名の登録

「データ管理」では、同じ名前のターゲット・アプリケーションの登録がサポートされています。これは、お客様が複数のサービス環境をご利用で、各環境のアプリケーション名が同じである、または開発環境と本番環境でアプリケーション名が同一である場合が該当します。この機能を使用することで、アプリケーションの登録の際にアプリケーション名に接頭辞の追加ができるようになり、「データ管理」へ正常に登録して、ターゲット・アプリケーションのリストで正しく識別することができます。

接頭辞が含まれるターゲット・アプリケーションには下位互換性がなく、17.10 以前のリリースに移行することはできません。接頭辞名のないターゲット・アプリケーションのみが、以前のリリースに移行することができます。

この詳細については、「*Administering Data Management for Oracle Enterprise Performance Management Cloud*」の「Reusing Target Application Names Multiple Times」を参照してください。

ドキュメントに対するフィードバックのお願い

オラクルでは、更新情報や製品情報のドキュメントのコンテンツの改善に向けた、お客様からのご意見やご提案を募集しています。フィードバックを EPMdoc_ww@oracle.com までお寄せください。Eメールの本文または件名に、お問い合わせまたはフィードバックのいずれかを記載し、該当の EPM Cloud サービスおよび月次パッチ・サイクルを指定してください。

サポートの終了について

クラシック・ディメンション・エディタ

2018年2月(18.02)の更新では、「ナビゲータ」の「ディメンション」リンクが「簡易ディメンション・エディタ」にリンクするようになります。結果的に、「クラシック・ディメンション・エディタ」のサービスは、2018年2月の更新にともないサポート終了となります(テスト環境へは2018年2月2日、本番環境へは2018年2月16日に適用されます)。

「簡易ディメンション・エディタ」の使用の詳細は、「*Administering Oracle Financial Consolidation and Close Cloud*」の「Editing Dimensions in the Simplified Dimension Editor」を参照してください。

ORACLE FUSION FINANCIALS CLOUD とデータ管理のファイルベース統合

Oracle Fusion Financial Cloud の Budgetary Control and Encumbrance Accounting が、データ管理と完全に統合されました。

この拡張により、Oracle Fusion Financials Cloud と Oracle Enterprise Performance Management Cloud が統合され、現在の標準のファイルベース統合と同等の機能をご利用いただけるようになります。結果として、ファイルベース統合は9月の更新より段階的に廃止されます。

オラクルでは、お客様が Oracle Fusion Financials Cloud と Oracle Enterprise Performance Management Cloud 間のファイルベース統合をご利用の場合、速やかにこの新しい統合を採用されることを推奨します。

今後の更新予定

今後数ヶ月の間に、次の重要な変更が Financial Consolidation and Close Cloud に加えられます。各項目をご留意の上、変更に対応した計画を作成してください。

高度な連結機能

今後の更新では「高度な連結」機能が追加されます。「Ownership Management」機能(「高度な連結」を使用できる機能)が有効化されている場合、「比例連結」ディメンションを再入力するために既存のすべてのデータを再連結する必要があります。

修正された不具合

更新がテスト環境に適用された際の最新情報については、このリストを再度ご確認ください。

不具合番号	摘要
26803900	Close Manager のタスクの即時通知が、「システム」の指定した勘定科目から常に送信されるようになりました。
26615021	「Administering Financial Consolidation and Close Cloud」ガイドが更新され、ユーザーはメンバーの別名のみ編集することができますが、その説明は編集できないことが明確になりました。
26593364	基本エンティティのデータを消去すると、すべての共有エンティティが消去されます。共有エンティティの場合は、手動でデータを消去する必要があります。
26933539	Close Manager では、スケジュールを削除するための警告メッセージに詳細情報が含まれるようになりました。
26968870	最新のパッチ適用後のビジネス・ルール実行時のエラーが修正されました。
26965567	スマート・リストを参照するビジネス・ルールで、Planning で予測された結果が正しく検証、起動、および提示されるようになりました。
26965519	ASO モデルのビジネス・ルールで、ルールに「Jan:Jun」のフォーマットにメンバー範囲が含まれているかどうかを正しく検証されるようになりました。
26897073	日本語に設定されたブラウザでは、「フィードバック・ユーティリティの提供」画面で使用されているラベルが、設計通りに正しく表示されるようになりました。 注記：画面の「Confirmation Application Submission」セクションのメッセージは英語で表示されます。これは今後の更新で修正される予定です。
26863693	ページ・ディメンションを含む「財務レポート」の「すべて展開」機能が正しく機能するようになりました。
26850877	「実行中」ステータスのバッチ・ジョブの停止または削除が失敗する問題が修正されました。
26424075	レポート作成の 4 人以上のメンバー選択時のエラーが表示されなくなりました。

不具合番号	摘要
26697191	月次パッチ適用時にデータ・ロードのスケジュールが削除されなくなりました。

考慮事項

ディメンション・エディタからの基本メンバーの追加

ディメンション・エディタから基本メンバーを追加し、「データ・ストレージを共有しない」プロパティを選択すると、システムは「動的計算」プロパティを適用し、メンバーは読み取り専用になります。

この問題を回避するには、メタデータ・ロードを使用してメタデータをロードするか、Smart View のメンバーに「共有しない」プロパティを追加します。このような場合、ストレージ設定は変更されず、メンバーにデータを入力することができます。

17.11 への 単一通貨のインポート

単一通貨アプリケーションで、単一通貨の「17.10 ライフサイクル管理」zip ファイルの 17.11 環境へのインポートを施行する場合、インポート・プロセスで「無効な属性ディメンション」エラーが表示されることがあります。

この回避策は、「ライフサイクル管理」のインポートに対し、アプリケーション全体を選択しないことです。代わりにアプリケーションで「アーティファクト・リスト」からアーティファクトに「すべて選択」を選択します。次に、「集計」フォルダが表示されるまで「プラン・タイプ」を展開し、「属性ディメンション」をオフにします。最後に「インポート」を実行してアプリケーションを作成します。

SMART VIEW

サマリーのダイアログの表示

Internet Explorer では、Smart View の「サマリーを開く」ダイアログを使用すると問題が発生することがあります。この問題を回避するには次のいずれかを実行してください。

- キーボードの矢印キーで「サマリー」ダイアログを選択して、閉じてから再度開く。
- 「サマリー」ダイアログを最小化してから再度開く。
- 別のブラウザを使用する。

Firefox サポート

Firefox では Firefox 57 より、Smart View などの XUL ベースのアドオンのサポートが終了します。2017 年 11 月からは、新しい WebExtension テクノロジーで構築された拡張機能のみが Firefox 上で動作するようになります。このため、Smart View 11.1.2.5.710 では ESR 56.xx. までのバージョンの Firefox のみがサポートさ

れます。引き続き Smart View 11.1.2.5.710 で Firefox を使用される場合は、Firefox のブラウザをアップグレードしないでください。

Firefox のブラウザが自動的に更新をインストールするように設定されている場合、オラクルは設定を「Check for updates, but let me choose whether to install them. (アップデートを確認しますが、インストールするかどうかは選択します。)」に変更することを推奨します。この設定の変更については Firefox ヘルプの説明をご確認ください。

共有エンティティにおけるデータのクリア

共有エンティティのクリアを施行する場合、基本エンティティとすべての共有エンティティはクリアされません。この問題を回避するには、すべての共有エンティティをクリアするためにプライマリ・エンティティをクリアしてください。

純利益および利益剰余金の現在の勘定科目に対する CTA 計算の変更点

2017 年 8 月更新(17.08)では、シード済の「純利益」階層に、「純利益」の兄弟として「Retained Earnings Current - Opening Balance - FX-CTA」という新規メンバーが含まれています。この新規メンバーに対して、「期首残高」計算が実行されるようになります。新規メンバーは、アップグレード・プロセスで自動的に追加されます。この変更のため、まだ連結が完了していない場合は、連結プロセスを実行して実測データを連結させてください。

アップグレード後の CICTA リダイレクト・アカウント設定の無効化

勘定科目を「CICTA Redirection Account」として割当てした場合、アップグレード後に選択した「Redirection」勘定科目属性は失われます。

セルフサービス・アップグレード

この更新では、「アプリケーション・コンテンツのアップグレード」の設定を使用しないことが強く推奨されています。「日時メンテナンス」で新しい「アップグレード」画面をご利用いただけますが、この機能は完全ではありません

FCCS 金額上書きおよびレート上書きの勘定科目

アプリケーションに履歴アカウントが定義されていない場合、シード済の「FCCS_Amount Override」および「FCCS_Rate Override」の勘定科目に共有メンバーが含まれなくなり、データベースの更新時にエラーが発生します。

これを回避するためには、プレースホルダの勘定科目を追加してください。

「FCCS_AmountOverride_Placeholder_Account」および「FCCS_RateOverride_Placeholder_Account」の両方またはいずれか一方を「FCCS_Balance Sheet」に追加します。「FCCS_AmountOverride」プレースホルダの勘定

科目に「履歴金額上書き」の為替レートを割り当て、「FCCS_RateOverride」プレースホルダの勘定科目に「履歴レート上書き」の為替レートを割り当てます。

データ収集期間の日付の編集

「補足データ」の「データ収集期間」では、「開始日」、「終了日」、および「クローズ日」を編集すると、日付が有効範囲外になるエラーが発生する可能性があります。

ICP プロパティを使用したエンティティ・メンバー名および別名

ICP プロパティを有効にして「エンティティ」を作成する場合は、メンバー名の最大文字数を 80 文字ではなく 76 文字までにすることで、ICP 接頭辞が使用できるようになります。

メタデータの操作について

次の考慮事項にご注意ください。

- 次のようなメタデータの変更は実行しないでください。
 - 親メンバーに仕訳が転記された基本メンバーの変更（親エンティティで仕訳が有効なエンティティ・ディメンション以外）

これらのメンバーに転記された仕訳または「補足データ」がある場合、これらの変更は、仕訳へのアクセスまたは既存の仕訳のインポートの際に問題を引き起こす可能性があります。

- Financial Consolidation and Close Cloud で「Smart View」のアドホック・グリッドを使用する場合は、グリッドにルートの「期間」メンバーを追加しないでください。ルートの「期間」メンバーが、「**Remove Only**」をクリックするか、アプリケーションにある期間を選択してから「**Keep Only**」を選択して削除してください。「期間」メンバーがグリッドに残っている場合、変更を加えたデータにより、「エンティティ」のインパクト・ステータスが正しく設定されなくなります。

Copyright © 2017 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

This document is provided for information purposes only, and the contents hereof are subject to change without notice. This document is not warranted to be error-free, nor subject to any other warranties or conditions, whether expressed orally or implied in law, including implied warranties and conditions of merchantability or fitness for a particular purpose. We specifically disclaim any liability with respect to this document, and no contractual obligations are formed either directly or indirectly by this document. This document may not be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, for any purpose, without our prior written permission.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Integrated Cloud Applications & Platform Services

17.11